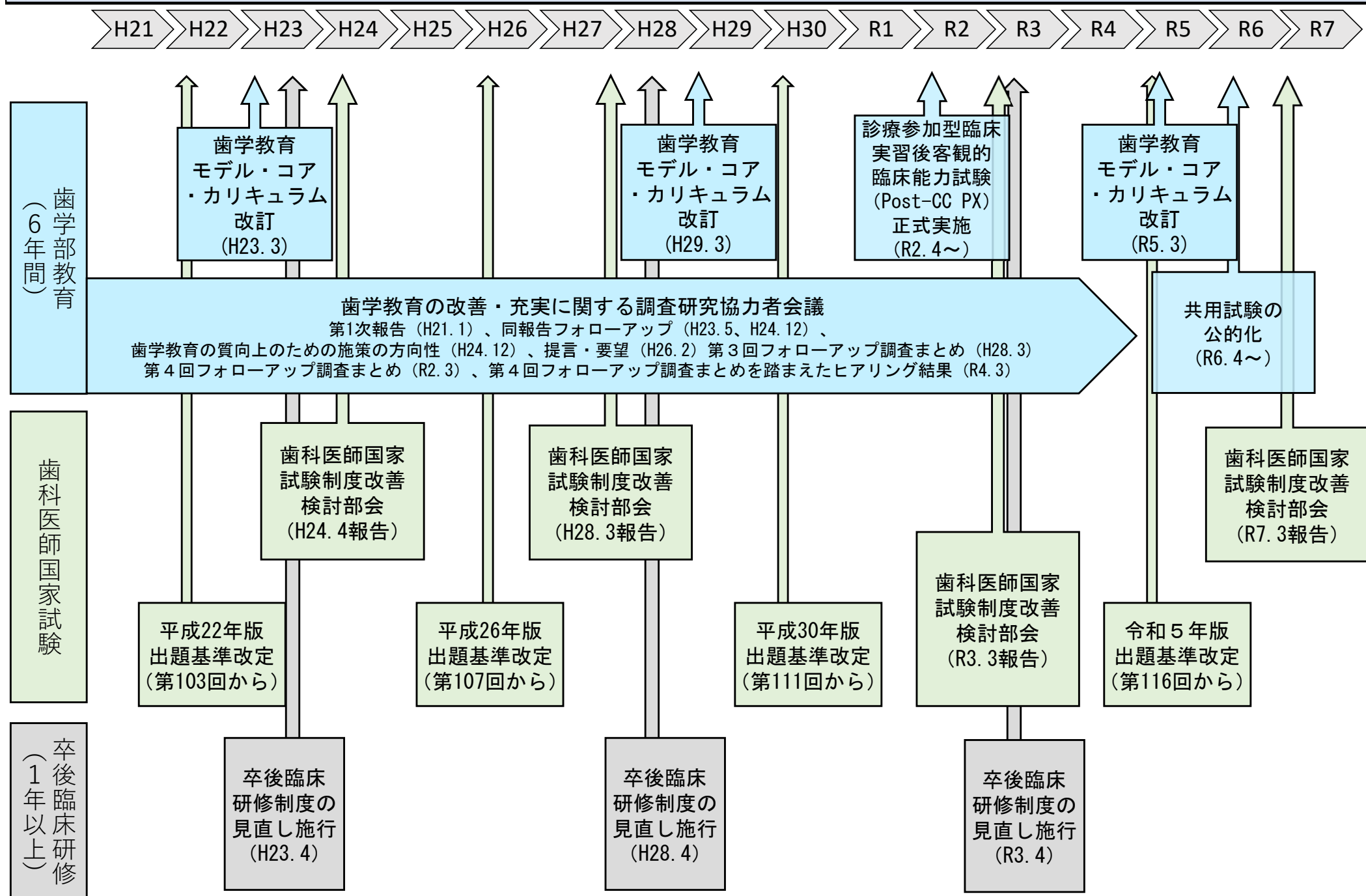


卒前・卒後の歯科医学教育を巡る近年の動き

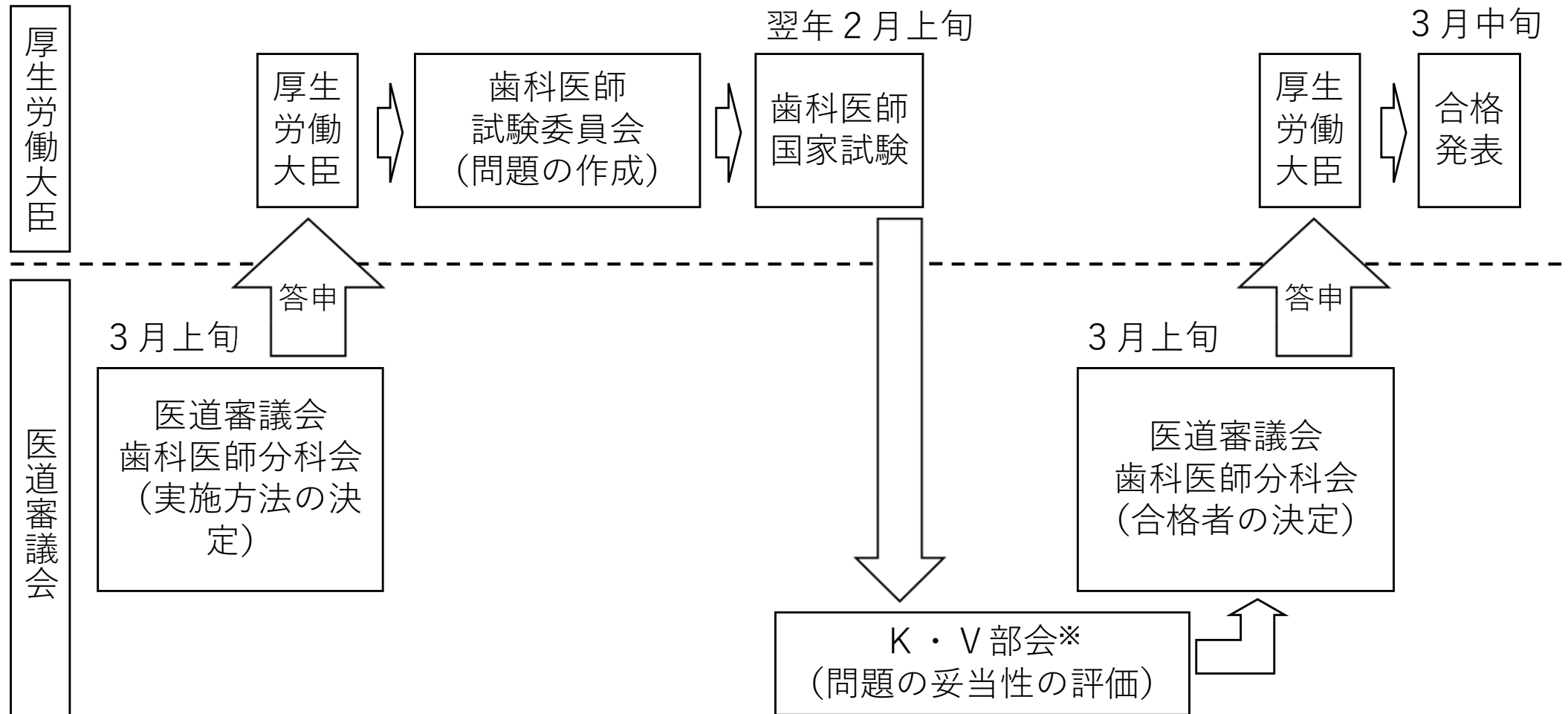
歯科医師国家試験制度改善検討部会(2)

資料
2

令和7年3月4日



歯科医師国家試験の実施・見直しに関する大まかな流れ



※K・V (Key Validation) 部会
医道審議会歯科医師分科会の下に設置されており、試験の実施結果を踏まえ、問題の妥当性を検討している。

令和5年版歯科医師国家試験出題基準（概要）

歯科医師国家試験は、歯科医師法第9条に基づいて、「臨床上必要な歯科医学及び口くう衛生に関して、歯科医師として具有すべき知識及び技能について」行われる。第9条にいう「知識と技能」とは、臨床研修歯科医師として歯科医療に第一歩を踏み出し、指導歯科医の下でその任務を果たすのに必要な基本的知識及び技能であると考えられる。

その内容を具体的な項目によって示したのが、歯科医師国家試験出題基準（ガイドライン）である。歯科医師国家試験の妥当な内容、範囲及びレベルを確保するため、歯科医師試験委員は、この基準を踏まえて出題する。ただし、出題内容に関する最終的な判断は、試験委員会が行うものとする。

出題基準は、ブループリント（歯科医師国家試験設計表）で出題割合を示し、合格基準にもその領域を採用している。

ブループリント（歯科医師国家試験設計表）

（出題割合は概数なので必ずしも合計が100%にならない場合がある。）

「必修の基本的事項」（約22%）

1	医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム	約2%
2	社会と歯科医療	約13%
3	予防と健康管理・増進	約5%
4	人体の正常構造・機能	約15%
5	人体の発生・成長・発達・加齢	約5%
6	主要な疾患と障害の病因・病態	約12%
7	主要症候	約10%
8	診察の基本	約7%
9	検査・臨床判断の基本	約11%
10	初期救急	約4%
11	治療の基礎・基本手技	約14%
12	一般教養的事項	約3%

「歯科医学総論」（約28%）

総論Ⅰ	保健・医療と健康増進	約19%
総論Ⅱ	正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢	約15%
総論Ⅲ	病因、病態	約8%
総論Ⅳ	主要症候	約4%
総論Ⅴ	診察	約8%
総論Ⅵ	検査	約14%
総論Ⅶ	治療	約19%
総論Ⅷ	歯科材料と歯科医療機器	約13%

「歯科医学各論」（約50%）

各論Ⅰ	成長・発育に関連した疾患・病態	約19%
各論Ⅱ	歯・歯髄・歯周組織の疾患	約24%
各論Ⅲ	顎・口腔領域の疾患	約23%
各論Ⅳ	歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害	約24%
各論Ⅴ	配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療	約8%

※ 歯科医学各論において、出題割合の約6%を歯科疾患の予防・管理に関する項目から出題する。

歯科医師国家試験制度改善の概要（出題数・出題内容・合格基準）

制度改善の項目		平成28年3月 (平成30年(第111回))	令和3年3月 (令和5年(第116回))	令和7年3月 (令和9年(第120回)、令和12年(第123回))	
出題数 (必修問題)		360題 (80題に増加)	360題 (80題)	360題 (80題)	
出題内容 (全体)		将来を見据え、社会情勢の変化に合わせて、次の項目の充実を図る。 ・高齢化等による疾病構造の変化に伴う歯科治療の変化に関する内容 ・地域包括ケアシステムの推進や多職種連携等に関する内容 ・口腔機能の維持向上や摂食機能障害への歯科治療に関する内容 ・医療安全やショック時の対応、職業倫理等に関する内容	近年の歯科医療を巡る状況や歯学教育の教授内容を踏まえ、前部会報告書で充実を図るとした内容に加え、次の項目も出題を行う。 ・歯科医師として必要な、和漢薬を服用する高齢者や全身疾患を持つ者等への対応に関する内容 ・医療のグローバル化に伴い、歯科医師による国際貢献がこれまで以上に求められている現状を踏まえた国際保健に関する内容	令和9年(第120回)	令和12年(第123回)
				用語や社会情勢の変化などを踏まえた必要最小限の改定を行い、次の項目の充実を図る。 ・情報倫理及びデータ保護に関する原則についての内容 ・病院歯科と歯科診療所等との連携	歯学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)の内容及び公的化した共用試験の実施状況を踏まえた出題内容とする。具体的な出題内容については、今後検討を行う。
合格基準	必修問題	絶対基準での評価を継続	絶対基準での評価を継続 出題内容に即した形式を柔軟に選択できるようAタイプに加えてX2タイプを採用	絶対基準での評価を継続 英語問題は、診療を行う際に必要な基礎的な英語の能力を中心とする。	公的化した共用試験の実施状況を踏まえ、出題内容とともに今後検討を行う。
	一般問題 臨床実地問題	受験者の質の変動に左右されず、歯科医師として具有すべき知識及び技能を有している者を適切に評価するために採用している現在の方法を継続。	現行の出題数と形式を引き続き採用し、タクソミーの高い出題を一層推進していく。 現在の3領域別の合格基準を見直し、総論と各論の2領域別に合格基準を設定する。	XXタイプでの出題は 令和8年(第119回) から廃止する。 現在の2領域別の合格基準を引き続き採用する。	

試験の時間割と解答時間

- ・ 幅の広い出題を可能にするため、午前の冊子、午後の冊子ともに必修問題・一般問題・臨床実地問題を均等に出題させる。

	現在
	出題数
必修問題	80問
一般問題	180問
臨床実地問題	100問
合計	360問

試験日	出題区分と試験時間		合計時間
1 日目	A (135分)	B (135分)	4 時間30分
2 日目	C (135分)	D (135分)	4 時間30分
出題内容 問題数	必修問題・一般問題：合計65問 (1 問当たり約65秒) 臨床実地問題：25問 (1 問当たり約 2 分40秒)		

<Aタイプ>

5つの選択肢の中から1つの正解を選ぶ形式

<X2、X3、X4タイプ>

5つの選択肢の中から2～4つの正解を選ぶ形式

<XXタイプ>

5つの選択肢の中から複数の正解を選ぶ形式

令和8年(119回)から廃止

<LAタイプ>

6～10の選択肢から1つの正解肢を選ぶ形式

<計算問題>

医薬品の処方（用法・用量等）や検査値等、数値を計算により解答させる形式

<順番問題>

治療手順等を正しい順に解答させる形式

歯科医師国家試験の変遷

回 数			83～86	87～90	91～94	95～98	99～102	103～106	107～110	111～115	116～	
年			H 2 ～ 5	6 ～ 9	10～13	14～17	18～21	22～25	26～29	30～ R 4	5 ～	
年間試験実施回数			1 回									
筆記試験の実施日数			1 . 5 日			2 日						
試 験 内 容	試 験 科 目	基 礎		(総論に含まれる)		歯科医学・歯科保健医療総論、 歯科医学・歯科保健医療各論 (科目別出題の廃止)			歯科医学総論、歯科医学各論			
		臨 床	学 説	8 科目（口腔外科、 保存、補綴、矯正、 口腔衛生、小児歯 科、歯科放射線、歯 科医学・医療総 論）								
		実技 (実地)		昭和57年に廃止、昭和58年以降は臨床実地								
		臨床実地		60問		80問	100問	105問			100問	
		必修					30問	50問	70問	80問		
		計	科 目	8		平成9年に科目別出題が廃止、平成10年以降は領域別出題						
	設問数		280問		280問	330問	365問	365問	360問			
	試 験 方 法	解答形式		昭和51年以降は客観的多肢選択形式を採用、 102回以降はXXタイプを追加、105回以降は計算問題とLAタイプを追加							平成30年にX3、X4、 順序問題を追加	
		実技 (実地) 試験	口腔外科	昭和50年に廃止、昭和58年以降は臨床実地問題を採用								
			保 存	昭和57年に廃止、昭和58年以降は臨床実地問題を採用								
			補 綴	昭和57年に廃止、昭和58年以降は臨床実地問題を採用								
禁忌肢					平成14年に導入、平成30年以降は廃止							

一般問題（必修問題を含む）を1問1点、臨床実地問題を1問3点とし、以下の全てを満たすことが必要。

① 領域A（総論）

② 領域B（各論）

相対基準

受験者の質の変動に左右されず、歯科医師として具有すべき知識及び技能を有している者を適切に評価するために採用している。

③ 必修問題

絶対基準

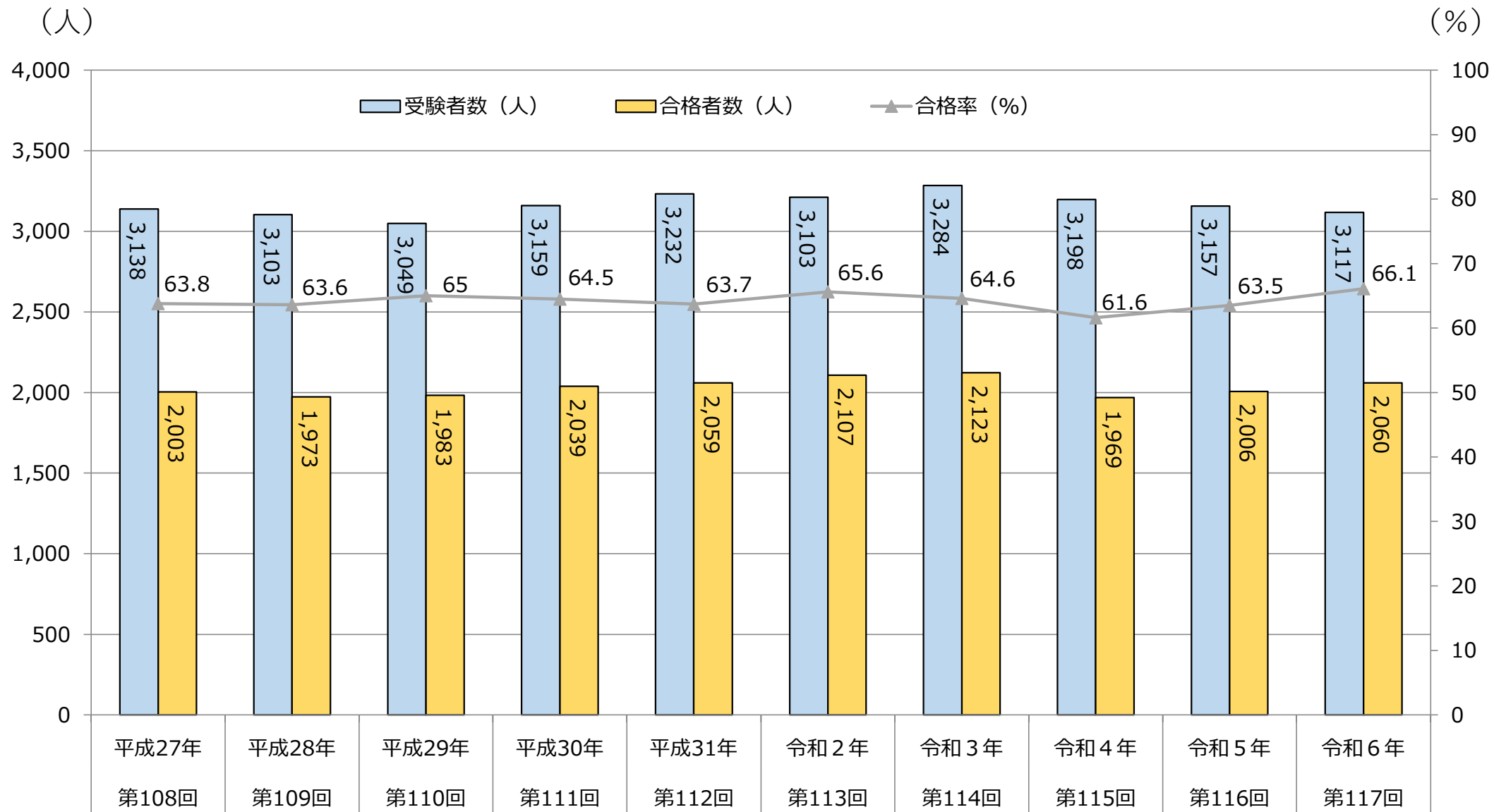
必修問題は、歯科医師として必ず具有すべき基本的な最低限度の知識・臨床能力を有する者を識別する目的で出題されており、絶対基準での評価を採用している。

歯科医師国家試験 合格者数等の推移

回数	施行年月日	受験者数（人）	合格者数（人）	合格率（％）
第108回	平成27年1月31～2月1日	3,138（1,995）	2,003（1,457）	63.8（73.0）
第109回	平成28年1月30～31日	3,103（1,969）	1,973（1,436）	63.6（72.9）
第110回	平成29年2月4～5日	3,049（1,855）	1,983（1,426）	65.0（76.9）
第111回	平成30年2月3～4日	3,159（1,932）	2,039（1,505）	64.5（77.9）
第112回	平成31年2月2～3日	3,232（2,000）	2,059（1,587）	63.7（79.4）
第113回	令和2年2月1～2日	3,211（1,995）	2,107（1,583）	65.6（79.3）
第114回	令和3年1月30～31日	3,284（2,103）	2,123（1,687）	64.6（80.2）
第115回	令和4年1月29～30日	3,198（1,999）	1,969（1,542）	61.6（77.1）
第116回	令和5年1月28～29日	3,157（1,919）	2,006（1,483）	63.5（77.3）
第117回	令和6年1月27～28日	3,117（1,962）	2,060（1,600）	66.1（81.5）

※（ ）内は新卒者を示す

歯科医師国家試験の合格率等の推移

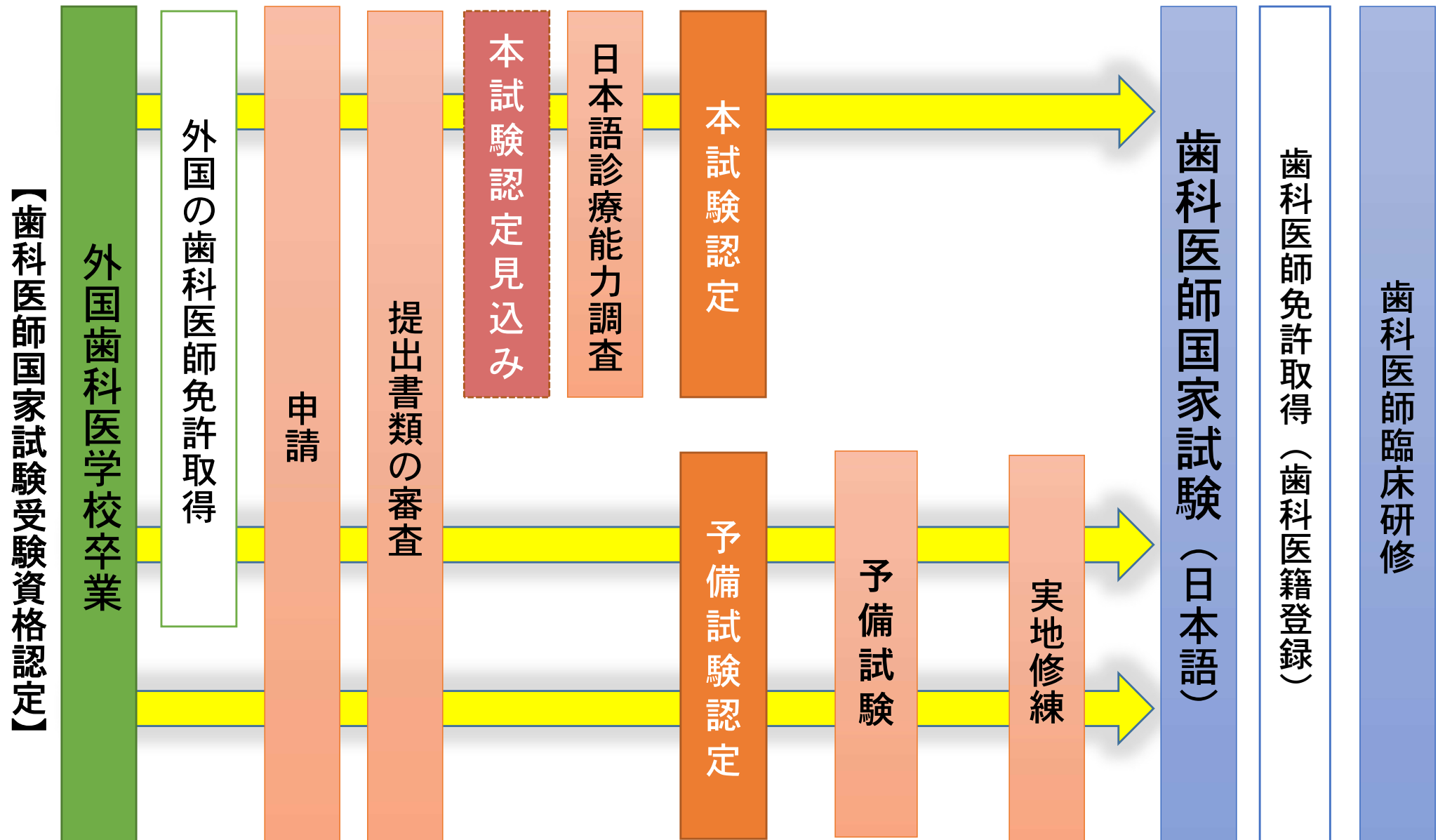


歯科医師国家試験 男女別合格者等の推移

					男女別合格率（％）	
回 数		総 数	男 性	女 性	男 性	女 性
第113回 (令和2年)	受験者数（人）	3,211	1,949	1,262	62.3	70.7
	男女比（％）		(60.7)	(39.3)		
	合格者数（人）	2,107	1,215	892		
	男女比（％）		(57.7)	(42.3)		
第114回 (令和3年)	受験者数（人）	3,284	1,928	1,356	61.1	69.7
	男女比（％）		(58.7)	(41.3)		
	合格者数（人）	2,123	1,178	945		
	男女比（％）		(55.5)	(44.5)		
第115回 (令和4年)	受験者数（人）	3,198	1,856	1,342	57.4	67.4
	男女比（％）		(58.0)	(42.0)		
	合格者数（人）	1,969	1,065	904		
	男女比（％）		(54.1)	(45.9)		
第116回 (令和5年)	受験者数（人）	3,157	1,829	1,328	59.2	69.5
	男女比（％）		(57.9)	(42.1)		
	合格者数（人）	2,006	1,083	923		
	男女比（％）		(54.0)	(46.0)		
第117回 (令和6年)	受験者数（人）	3,117	1,837	1,280	62.0	72.0
	男女比（％）		(58.9)	(41.1)		
	合格者数（人）	2,060	1,139	921		
	男女比（％）		(55.3)	(44.7)		

第117回歯科医師国家試験 卒業年次別受験者数・合格者数・合格率

卒業年次		受験可能回数	受験者数（人）	構成比（％）	合格者数（人）	合格率（％）
新卒	令和5年4月～ 令和6年3月	1回	1,962	62.9	1,600	81.5
既卒	令和4年4月～ 令和5年3月	2回	496	15.9	290	58.5
	令和3年4月～ 令和4年3月	3回	184	5.9	76	41.3
	令和2年4月～ 令和3年3月	4回	121	3.9	40	33.1
	平成31年4月～ 令和2年3月	5回	80	2.6	19	23.8
	平成30年4月～ 平成31年3月	6回	52	1.7	12	23.1
	平成29年4月～ 平成30年3月	7回	53	1.7	7	13.2
	平成28年4月～ 平成29年3月	8回	47	1.5	8	17.0
	平成27年4月～ 平成28年3月	9回	38	1.2	4	10.5
	平成27年3月 以前	10回以上	84	2.7	4	4.8
計			1,155	37.1	460	39.8
総 計			3,117	100	2,060	66.1



歯科医師国家試験受験資格認定の基準について

		歯科医師国家試験受験資格認定	歯科医師国家試験 予備試験受験資格認定
外国 歯科 医学校 の 修業 年数	歯科医学校の 入学資格	高等学校卒業以上（修業年数12年以上）	
	歯科医学校の教育 年限及び履修時間 （大学院の修士課程、 博士課程等は 算入しない）	6年以上（進学課程；2年以上、専門課程；4年以上）の一貫した専門教育（4500時間以上）を受けていること。 ただし、5年であっても、5500時間以上の一貫した専門教育を受けている場合には、基準を満たすものとする。	5年以上（専門課程；4年以上）であり、専門科目の履修時間が3500時間以上で、かつ一貫した専門教育を受けていること。
	歯科医学校卒業までの修業年限	18年以上 （教育年限が5年以上の場合は17年以上）	17年以上
歯科医学校卒業からの年数		10年以内（但し、歯科医学教育又は歯科医業に従事している期間は除く）	
専門科目の成績		良好であること	
教育環境		大学付属病院の状況、教員数等が日本の大学とほぼ等しいと認められること	大学付属病院の状況、教員数等が日本の大学より劣っているものでないこと
歯科医学校卒業後、当該国の 歯科医師免許取得の有無		取得していること	取得していなくてもよい
日本語能力		日本の中学校及び高等学校を卒業していない者については、日本語能力試験N1（平成21年12月までの認定区分である日本語能力試験1級を含む。）の認定を受けていること	

○ 試験科目

(1) 学説試験第一部試験

解剖学（組織学を含む。）、生理学、生化学（免疫学を含む。）、薬理学、病理学、微生物学および衛生学

(2) 学説試験第二部試験

口腔外科学、保存学、補綴学、矯正学および小児歯科学

(3) 実地試験

口腔外科学、保存学、補綴学および矯正学

○ 試験内容

(1) 学説試験

各科目につき、多肢選択式問題と用語の組合せや穴埋め等の問題となっている。

(2) 実地試験

人工歯を用いた根管孔明示や総義歯の人工歯排列、エックス線写真・口腔内写真や歯列模型等を用いた診断や治療方針等を問う問題となっている。

歯科医師国家試験受験資格認定等の状況

年度	受験資格認定の状況		予備試験の実施状況								
	本試験 認定者数 (名)	予備試験 認定者数 (名)	学 説 試 験 第 一 部 試 験			学 説 試 験 第 二 部 試 験			実 地 試 験		
			受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率 (%)	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率 (%)	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率 (%)
平成27	3	4	3	2	66.7	2	2	100.0	2	2	100.0
平成28	5	3	3	0	0.0	0	0	－	0	0	－
平成29	4	4	3	1	33.3	1	1	100.0	1	0	0.0
平成30	5	5	4	3	75.0	3	3	100.0	4	4	100.0
令和元	7	6	5	1	20.0	1	1	100.0	1	1	100.0
令和2	6	0	5	1	20.0	1	1	100.0	1	1	100.0
令和3	2	2	4	2	50.0	2	2	100.0	2	2	100.0
令和4	2	5	4	2	50.0	2	2	100.0	2	2	100.0
令和5	9	3	5	3	60.0	3	3	100.0	3	3	100.0
令和6	5	4	3	1	33.3	1	1	100.0	1	1	100.0